

川俣町里山再生モデル事業の概要

モデル事業の目的

- 「緑の少年団」の森林学習活動などを再開するための環境づくり
- 事業成果について原子力災害を受けた里山の再生に寄与

モデル地区概要

- モデル地区：第二親子の森（川俣町山木屋字世戸一山地内）
- 区域面積：約2ha（全域民有林）

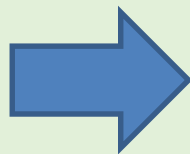
事業の内容

除染（H30年度）

- 体験広場や散策道において、約5,595㎡の堆積有機物除去及び堆積有機物残さ除去を実施しました。



除染実施前



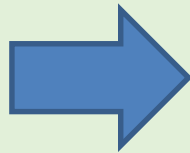
除染実施後

森林整備（H28～29年度）

- スギ人工林の間伐（間伐率17%、0.04ha）、雪害木の整理（0.06ha）及びケヤキ人工林の除伐（0.23ha）を実施しました。
- 表土流出抑制対策として、丸太伏工の設置（81.11㎡）を実施しました。



実施前

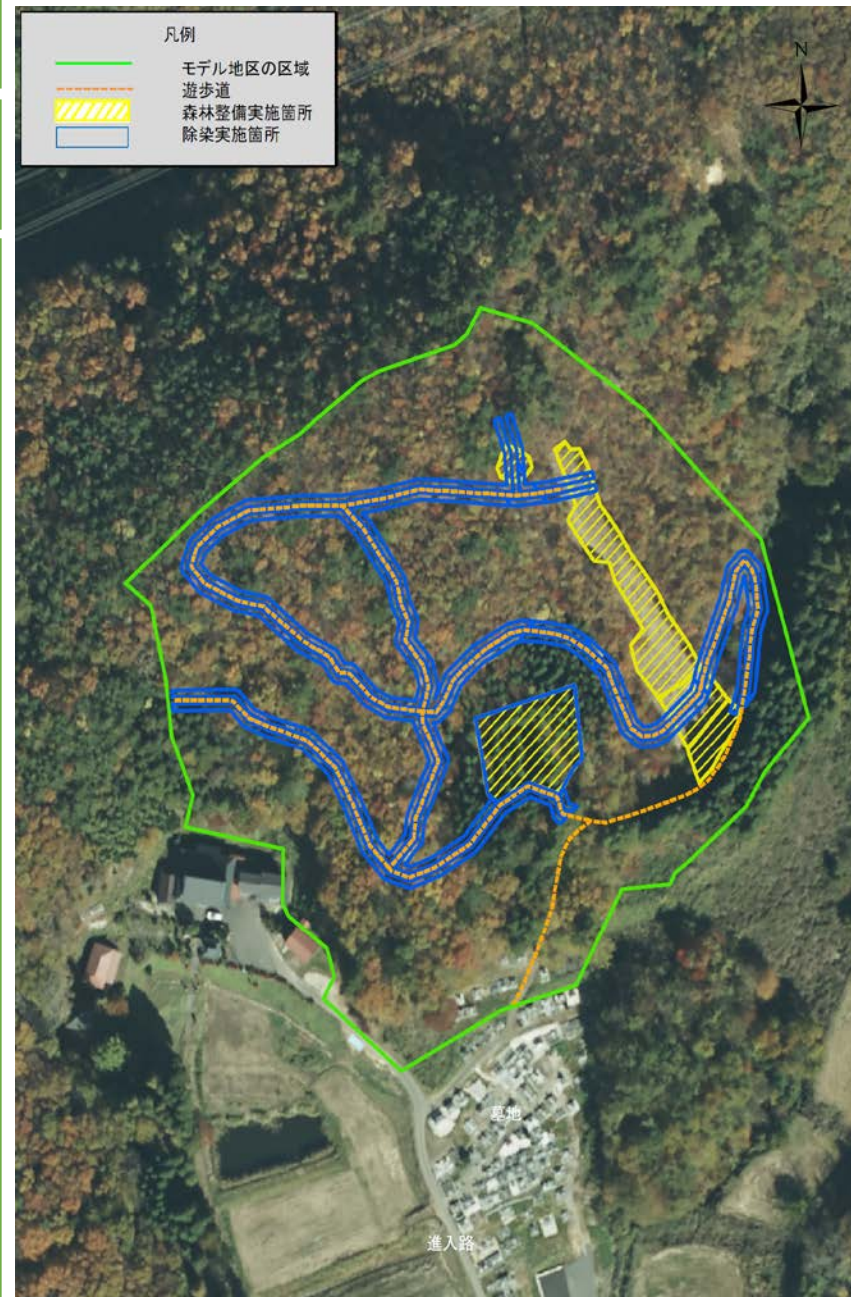
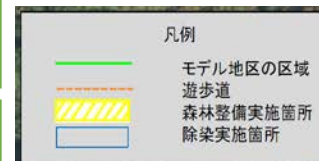


実施後

線量測定（H29～R1年度）

- H29からR1にかけてモデル地区内の空間線量率を毎年測定しました。
（メッシュ測定：88（メッシュ数）、遊歩道等の歩行サーベイ：約913m 等）
- 空間線量率の測定にあわせて個人被ばく線量を測定しました。

<モデル地区の概況図>



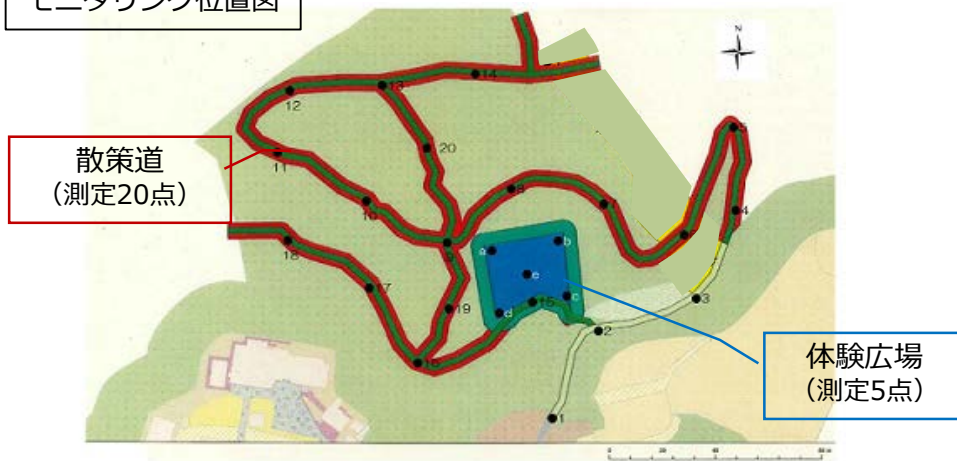
川俣町モデル事業の結果

除染の結果

○空間線量率（高さ1 m）の平均値（単位：μSv/h）

測定箇所	除染前 H30年9月	除染後 H30年11月	低減率	（物理学的 減衰率）
平均（体験広場）	0.88	0.69	22%	（1.5%）
平均（散策道）	0.79	0.68	14%	（1.5%）
平均（全体）	0.80	0.68	15%	（1.5%）

モニタリング位置図



森林整備の結果

- 間伐等の森林整備により地表面に光が届くようになり、植物の繁茂が見込まれ、表土流出の抑制効果や、根が土壌を保持する力が向上することにより、水源涵養機能、山地災害防止機能等の発揮も期待されます。
- 丸太伏工の設置によって作業道法面の安定が図られ、放射性物質を含む土壌の流出を抑制する効果が期待されます。
- 林内及び歩道上に倒れた樹木や景観を悪くする草木を取り除き、間伐材による丸太伏工を整備することによって、安全・安心・快適に散策できる森林空間に変化し、「緑の少年団」の関係者から評価されています。
- 今回の森林整備により142人/ha、丸太伏工で1人/m²、延べ114人日（平成28年度94人、平成29年度20人）の雇用が生まれ、林業活動の継続が図られました。

線量測定の結果

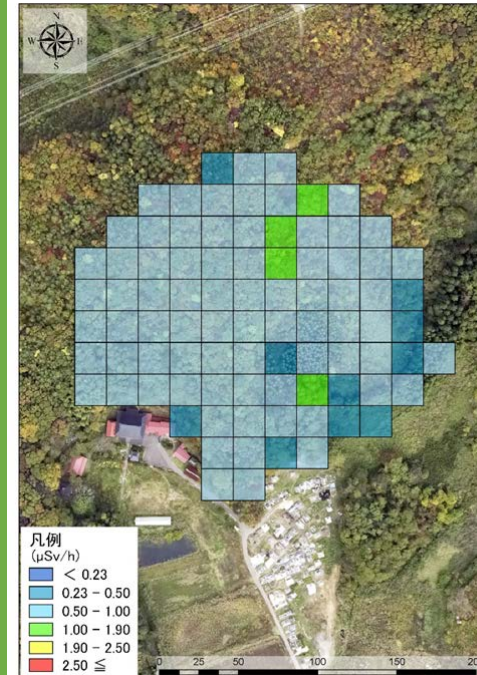
※空間線量率は実測値を基にR1年8月1日を基準日として算出

【メッシュ測定】

地区平均(地上1m)は0.70μSv/hで、最高値は1.35μSv/h、最小値は0.28μSv/hでした。

【歩行サーベイ】

平均は0.60μSv/h、最大値は1.11μSv/h、最小値は0.24μSv/hでした。



【個人被ばく線量】

町役場へのヒアリングを行い、想定される利用形態（滞在時間122分）を設定し、個人被ばく線量を測定しました。その結果、1回の利用に伴う個人被ばく線量は、0.0009mSv（0.9μSv）でした。

※胸部X線検査1回あたりの被ばく線量は0.06mSv（60μSv）

モデル事業の効果

- 除染によって線量が低くなったことなどにより、「緑の少年団」の森林学習活動などを再開するための環境づくりに寄与したと考えられます。
- 除染と森林整備を一体的に実施することにより、快適な森林空間を創出し里山の再生に寄与したと考えられます。